

2016 年度前期 授業評価アンケート結果

(1) 目的

平成 26 (2014) 年度より全学的なカリキュラム改編が行われ、新カリキュラムの PDCA の一環として、授業評価アンケートを実施しています。調査データについては、大学全体の教育の質的向上に繋げること、各担当教員が授業方法の改善点を見出し、積極的に自己研鑽を行うとともに、教員一人ひとりの更なる教育力の向上に活用されることを目的としております。またそれぞれの改善点を各授業のシラバスに反映し、教育に具現化し実行していくことが肝要であります。

(2) 対象学年および対象科目

全学年 前期開講科目

但し、プロジェクト科目については前期に登録するが、授業計画が後期に終了するため後期科目と共に調査します。

(3) 実施期間

1～4 年生 平成 28 年 9 月 2 日 (木) ～ 9 月 5 日 (月)

(4) 実施形式

マークシート形式および自由記述

(5) 履修者数・回答者数・回収率

対象科目数 285 回答科目数 285

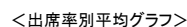
履修者数 8,019 回収数 6,377

前回の結果を踏まえ回収率を大幅に上げる取り組みをし、前回 54.1%から 79.5%に上げることができました。

2016年度前期 成安造形大学

項目別回答分布(人数と平均値)

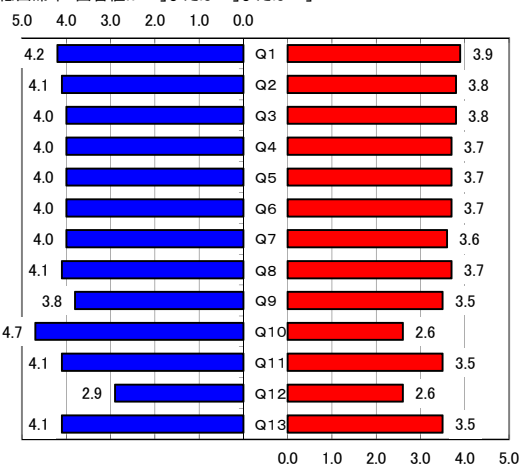
＜評価リーダーチャート＞



軸となる設問:「Q10」

高出席率:回答値が「5」または「4」

低出席率: 回答値が「3」または「2」または「1」



Stacked bar chart showing the percentage of correct answers for each question (Q1 to Q13) across five difficulty levels (1 to 5). The Y-axis represents the percentage from 0% to 100%. The legend indicates: 5 (orange), 4 (yellow), 3 (green), 2 (blue), 1 (purple), and 無回答 (white).

Question	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4	Level 5	無回答
Q1	0%	0%	15%	50%	35%	0%
Q2	0%	5%	15%	50%	30%	0%
Q3	0%	5%	15%	50%	30%	0%
Q4	0%	5%	15%	50%	30%	0%
Q5	0%	5%	15%	50%	30%	0%
Q6	0%	5%	15%	50%	30%	0%
Q7	0%	5%	15%	50%	30%	0%
Q8	0%	5%	15%	50%	30%	0%
Q9	0%	5%	15%	50%	30%	0%
Q10	0%	5%	15%	50%	30%	0%
Q11	0%	5%	15%	50%	30%	0%
Q12	20%	20%	25%	20%	15%	0%
Q13	0%	5%	15%	50%	30%	0%

【設問の観点別 分析について】

質問項目/設問の観点/全科目の平均値を掲載しています。

各科目の項目ごとの回答を⑤を5点④を4点・・・①を1点として合計した値を回答数で割り、平均を出しています。

質問項目	観点		全体平均 (H27 後期)
Q 1、この授業はシラバス（授業計画）に沿ったものだった。	授業の計画性に関する こと	個別授業の改善等に関する こと (授業計画の妥当性)	4.2 (4.2)
Q 2、この授業の難易度は適切であった。		カリキュラム上の位置づけ（順次性・網羅性・レベル）の検証に関する こと (授業の難易度、レベル)	4 (4.1)
Q 3、この授業の課題の量は適切であった。			4 (4)
Q 4、この授業は、教え方（説明や板書など）や教材（教科書やプリントなど）は、工夫されていてわかりやすかった。	授業運営に関する こと	個別授業の改善等に関する こと (教育方法)	4 (4)
Q 5、授業担当教員に質問や相談などがしやすいように配慮されていた。		個別授業の改善等に関する こと (教員とのコミュニケーション)	4 (4)
Q 6、より高い学習成果を修めてもらいたいという教員の熱意が感じられた。		個別授業の改善等に関する こと (教員の熱意)	4 (4)
Q 7、この授業の内容（知識、スキル、制作など）は、さらに深く学びたいと思う内容であった。	授業の魅力に関する こと	カリキュラム上の位置づけ（順次性・網羅性・レベル）の検証に関する こと (授業の魅力に関する こと/学生ニーズ)	4 (4)
Q 8、この授業は総合的に判断して良い授業であった。		カリキュラム上の位置づけ（順次性・網羅性・レベル）の検証に関する こと (授業の魅力に関する こと/総合評価)	4.1 (4.1)
Q 9、私は、この授業科目の概要、到達目標、授業計画などシラバスで理解して受講した。	学生の自己評価に関する こと	学生の授業参加態度	3.7 (3.7)
Q10、私はこの授業における欠席回数は次にあてはまる。			4.4 (4.3)
Q11、私は、受講マナー（遅刻、関係のない私語、携帯電話、居眠りなどをしない）を守って受講した。			4 (4)
Q12、私は、この授業を受講するにあたって準備学習など（授業外でおこなう予習・復習・課題・レポート等）は週に平均何時間以上であった。		学生の学習時間の把握	2.9 (2.8)
Q13、私はこの授業を受講して、新しい知識を得たり考え方が深まったり、技術・技能の向上などが得られたと感じている。		学生の達成感	4 (4)

＊ Q1～Q9 並びに Q11、Q13 について

⑤強くそう思う ④おおむねそう思う ③どちらでもない ②あまりそう思わない ①全くそう思わないで回答をいただいております。
全体平均4以上とおおむねそう思うから強くそう思うと満足度の高い回答が多いといえます。

＊ Q10 について

⑤0回（全出席） ④1～2回 ③3～4回 ②5～9回 ①10回以上で回答をいただいております。

平均数値では、4.4 を示しており、全体平均 80%以上の出席率であるといえます。

＊ Q12 について

⑤5時間以上 ④3時間以上5時間未満 ③1時間以上3時間未満 ②1時間未満 ①全くしてないで回答をいただいております。

平均数値では、2.9 と他の平均に比べて低い数値と見えますが、回答項目で見ると1科目につき週1時間以上3時間未満の準備学習をおこなっており、概ね1単位あたり求められている学習時間が確保できているといえます。

＊ Q12 について

⑤5時間以上 ④3時間以上5時間未満 ③1時間以上3時間未満 ②1時間未満 ①全くしてないで回答をいただいております。

平均数値では、2.8 と他の平均に比べて低い数値と見えますが、回答項目で見ると1科目につき週1時間以上3時間未満の準備学習をおこなっており、概ね1単位あたり求められている学習時間が確保できているといえます。

2016 年度後期 授業評価アンケート結果

(1) 目的

平成 26 (2014) 年度より全学的なカリキュラム改編が行われ、新カリキュラムの PDCA の一環として、授業評価アンケートを実施しています。調査データについては、大学全体の教育の質的向上に繋げること、各担当教員が授業方法の改善点を見出し、積極的に自己研鑽を行うとともに、教員一人ひとりの更なる教育力の向上に活用されることを目的としております。またそれぞれの改善点を各授業のシラバスに反映し、教育に具現化し実行していくことが肝要であります。

(2) 対象学年および対象科目

全学年 後期開講科目

但し、プロジェクト科目については前期に登録するが、授業計画が後期に終了するため後期科目と共に調査しました。

(3) 実施期間

1～3 年生 平成 29 年 3 月 22 日 (水) ～3 月 25 日 (土)

4 年生 平成 29 年 1 月 10 日 (月) ～1 月 23 日 (月)

(4) 実施形式

マークシート形式および自由記述

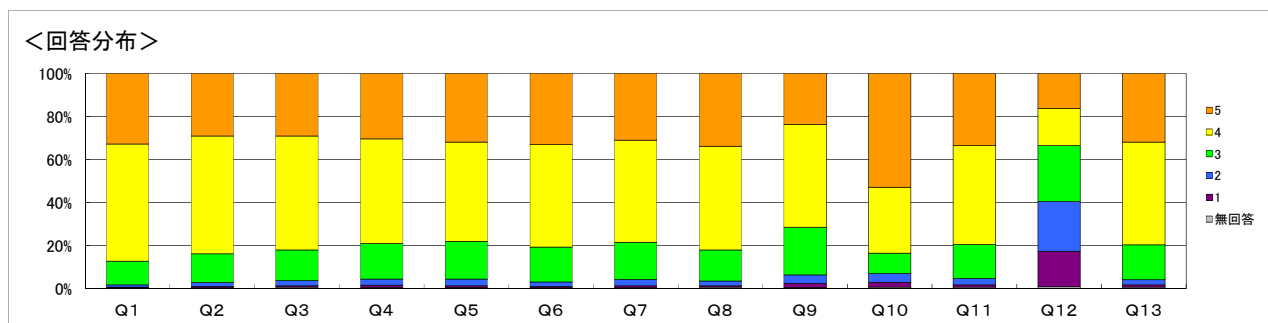
(5) 履修者数・回答者数・回収率

対象科目数 305 回答科目数 305

履修者数 7,946 回収数 5,767 (回収率 72.6%)

前年度の結果を踏まえ回収率を大幅に上げる取り組みをし、今年度は前期、後期共に 70% 以上の回収率となっています。

2016年度後期 成安造形大学

[illegible]

【設問の観点別 分析について】

質問項目/設問の観点/全科目の平均値を掲載しています。

※各科目の項目ごとの回答を⑤を5点④を4点・・・①を1点とした合計値を回答数で割り、平均を出しています。(2015年度後期の平均値を比較資料として()で提示しています)

質問項目	観点		全体平均 (2015 後期)
Q 1、この授業はシラバス（授業計画）に沿ったものだった。	授業の計画性に関する こと	個別授業の改善等に関する こと (授業計画の妥当性)	4. 2. (4. 2)
Q 2、この授業の難易度は適切であった。		カリキュラム上の位置づけ（順次性・網羅性・レベル）の検証に関する こと（授業の難易度、レベル）	4. 1 (4. 1)
Q 3、この授業の課題の量は適切であった。			4. 1 (4. 0)
Q 4、この授業は、教え方（説明や板書など）や教材（教科書やプリントなど）は、工夫されていてわかりやすかった。	授業運営に関する こと	個別授業の改善等に関する こと (教育方法)	4. 1 (4. 0)
Q 5、授業担当教員に質問や相談などがしやすいように配慮されていた。		個別授業の改善等に関する こと (教員とのコミュニケーション)	4. 1 (4. 0)
Q 6、より高い学習成果を修めてもらいたいという教員の熱意が感じられた。		個別授業の改善等に関する こと (教員の熱意)	4. 1 (4. 0)
Q 7、この授業の内容（知識、スキル、制作など）は、さらに深く学びたいと思う内容であった。	授業の魅力に関する こと	カリキュラム上の位置づけ（順次性・網羅性・レベル）の検証に関する こと（授業の魅力に関する こと/学生ニーズ）	4. 1 (4. 0)
Q 8、この授業は総合的に判断して良い授業であった。		カリキュラム上の位置づけ（順次性・網羅性・レベル）の検証に関する こと（授業の魅力に関する こと/総合評価）	4. 1 (4. 1)
Q 9、私は、この授業科目の概要、到達目標、授業計画などシラバスで理解して受講した。	学生の自己評価に関する こと	学生の授業参加態度	3. 9 (3. 7)
Q10、私はこの授業における欠席回数は次にあてはまる。			4. 3 (4. 3)
Q11、私は、受講マナー（遅刻、関係のない私語、携帯電話、居眠りなどをしない）を守って受講した。			4. 1 (4. 0)
Q12、私は、この授業を受講するにあたって準備学習など（授業外でおこなう予習・復習・課題・レポート等）は週に平均何時間以上であった。		学生の学習時間の把握	2. 9 (2. 8)
Q13、私はこの授業を受講して、新しい知識を得たり考え方が深まったり、技術・技能の向上などが得られたと感じている。		学生の達成感	4. 1 (4. 0)

＊ Q1～Q9 並びに Q11、Q13 について

⑤強く思う ④おおむね思う ③どちらでもない ②あまりそう思わない ①全くそう思わない
で回答をいただいております。

全体平均4 以上とおおむね思うかから強く思うと満足度の高い回答が多いといえます。

＊ Q10 について

⑤0回（全出席） ④1～2回 ③3～4回 ②5～9回 ①10回以上
で回答をいただいております。

平均数値では、4.4 を示しており、全体平均 80%以上の出席率であるといえます。

＊ Q12 について

⑤5時間以上 ④3時間以上5時間未満 ③1時間以上3時間未満 ②1時間未満 ①全くしてない
で回答をいただいております。

平均数値では、2.9 と他の平均に比べて低い数値と見えますが、回答項目で見ると1 科目につき週 1 時間以上 3 時間未満の準備学習をおこなっており、概ね 1 単位あたり求められている学習時間が確保できているといえます。